

奈良絵本・絵巻の研究 とその影響

慶應義塾大学 石川透



奈良絵本・絵巻とは

- 室町時代後期から江戸時代中期（16世紀半ばから18世紀初め）にかけて制作された直筆・手彩色の絵本や絵巻。
- 署名がほとんどないため、正確な制作時期・制作過程は不明であり、説の一つとして奈良で作られたとされていた。
- しかし、その本文を執筆していた人物の中に浅井了意（?～1691年）が存在していること等から、実際にはほとんどが京都で制作されていたことが判明。
- 類似した作品群を分類することにより、およその制作時期も明らかになってきた。
- 以下に、制作時期の古い作品からの解説。



八幡縁起絵巻



花鳥風月



熊野の本地絵巻



四十二の物争い



住吉物語

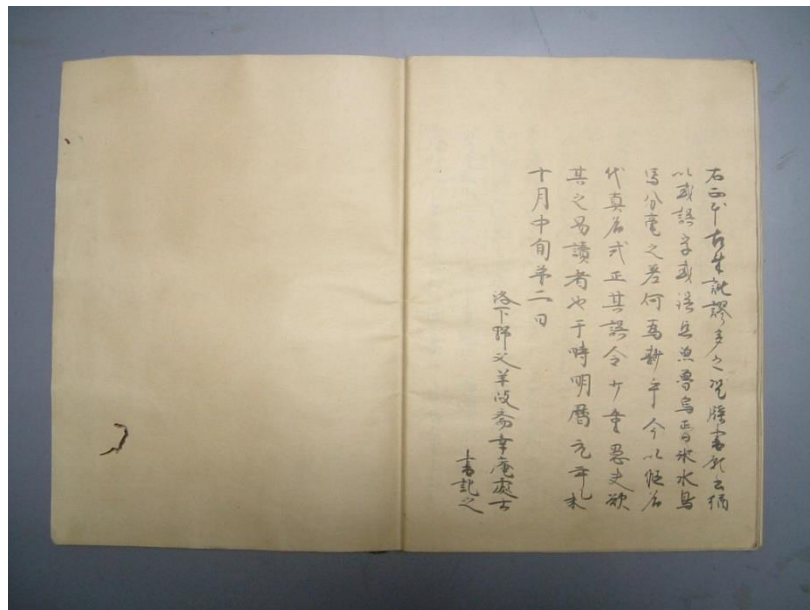
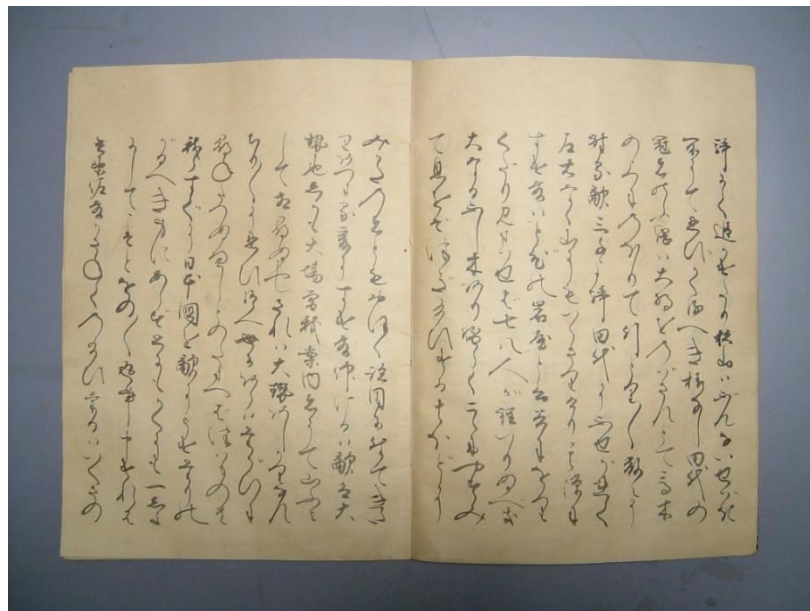
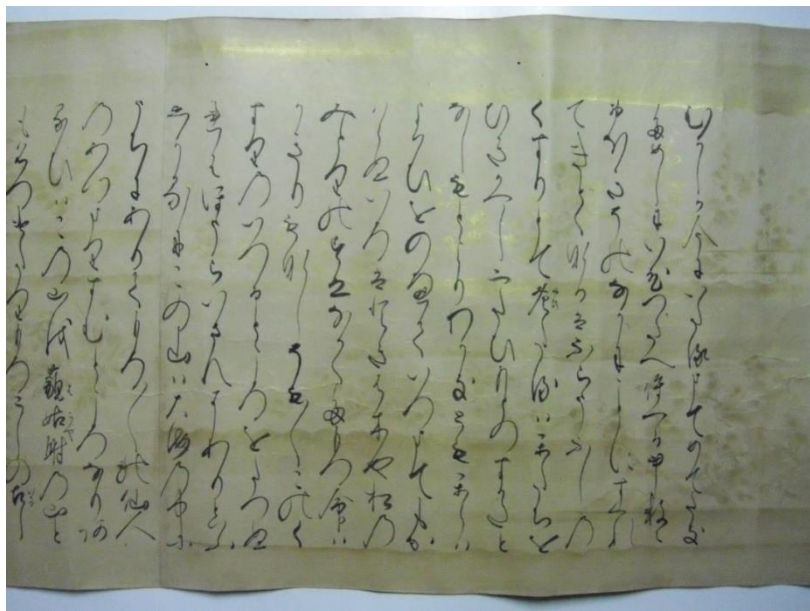


物くさ太郎

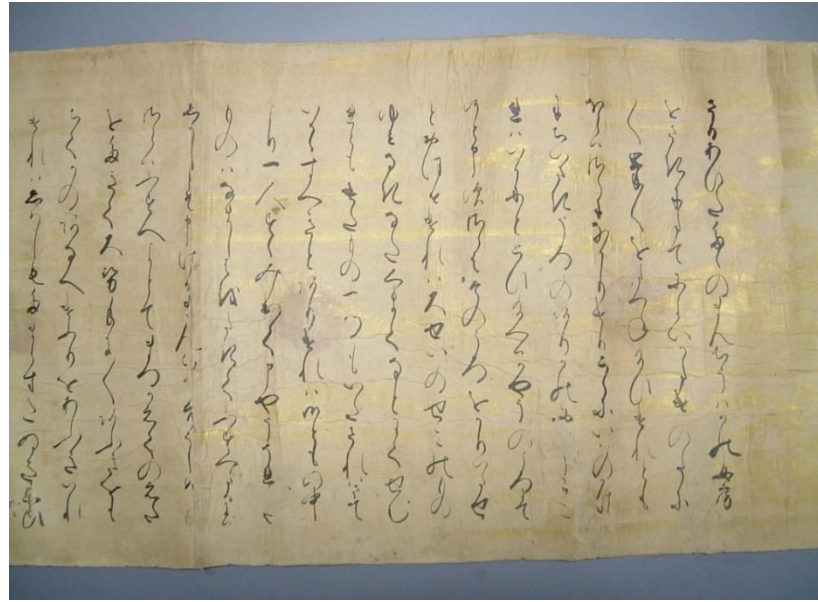


蓬萊物語絵巻 (浅井了意筆)

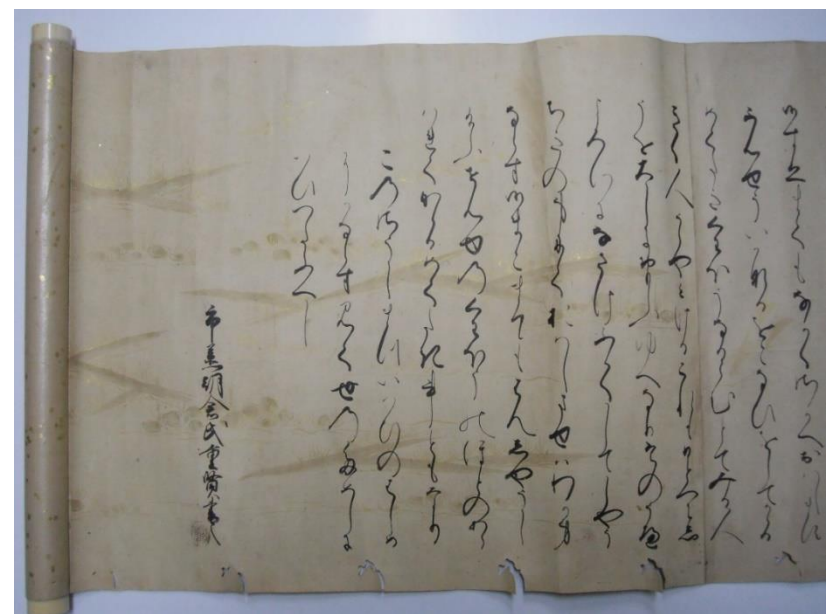
源平盛衰記写本



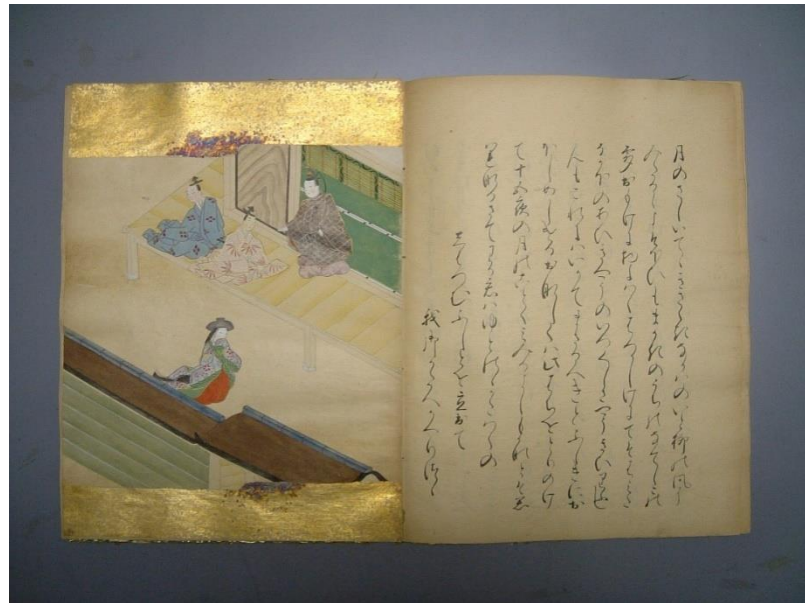
雪女物語絵巻 (朝倉重賢筆)



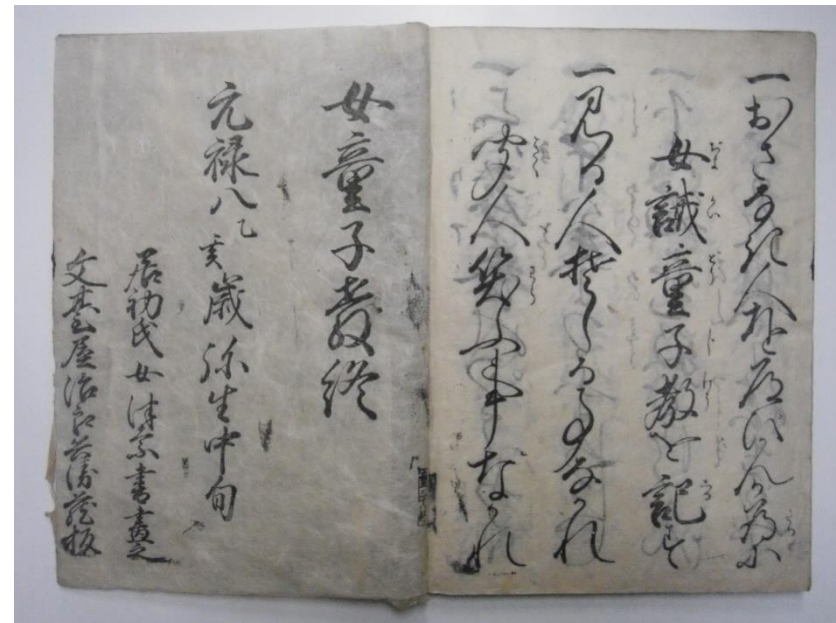
文正草子絵巻



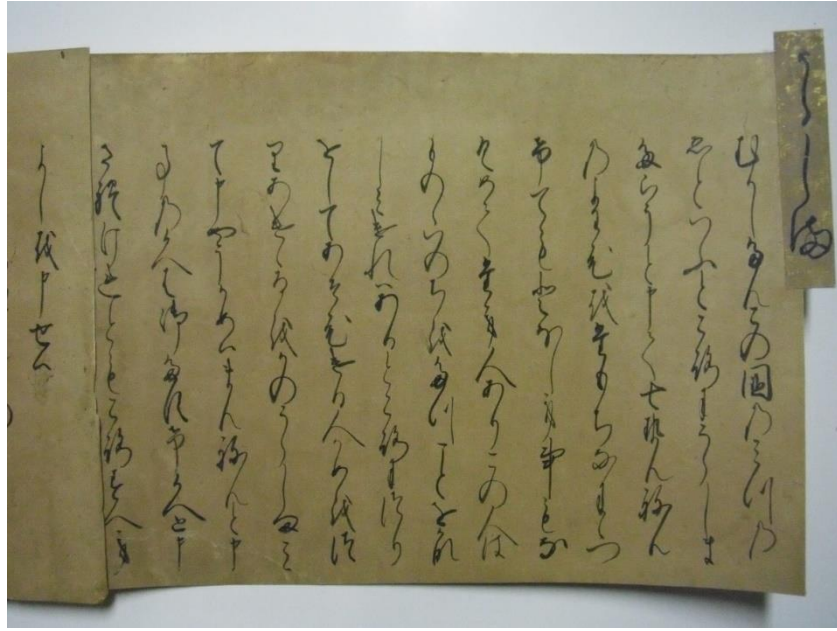
鉢かづき (居初つな画筆)



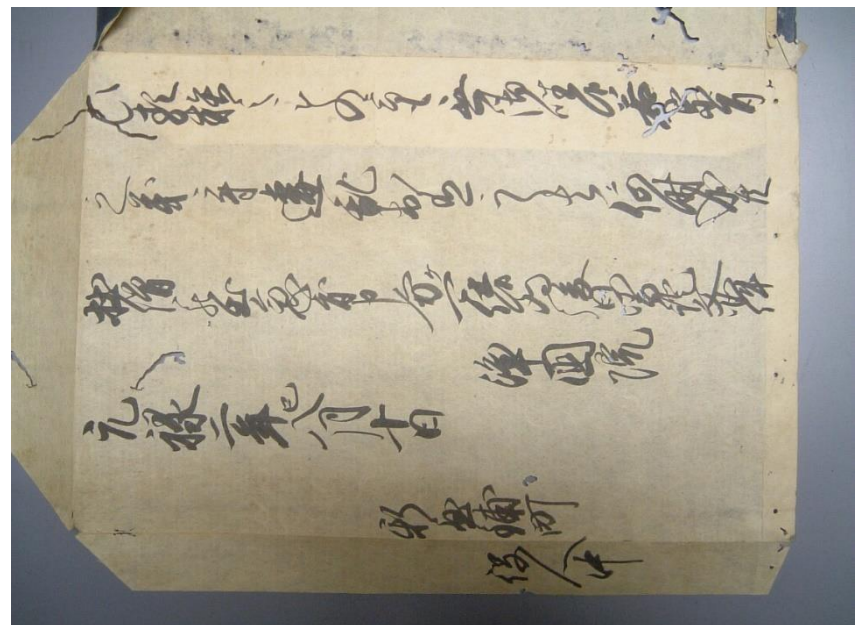
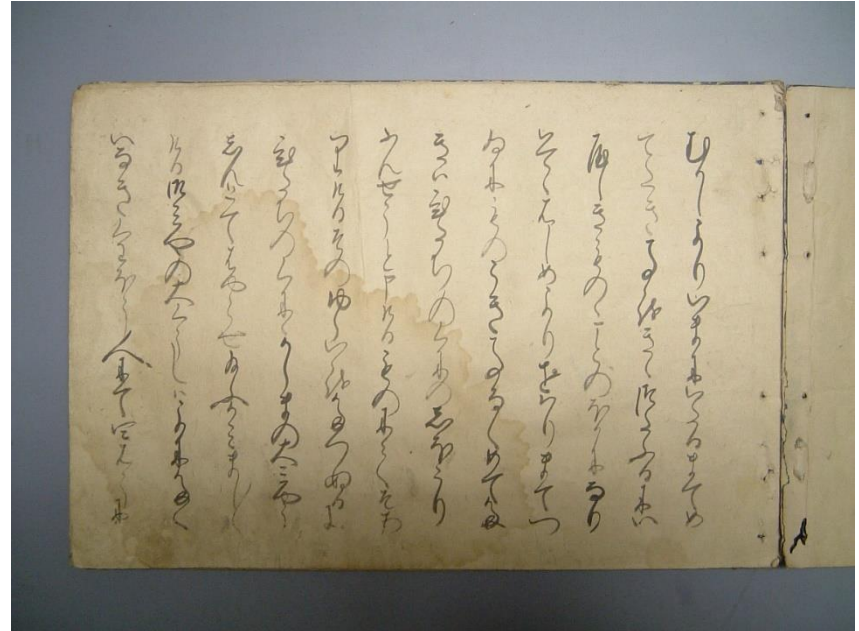
女実語教女童子教版本



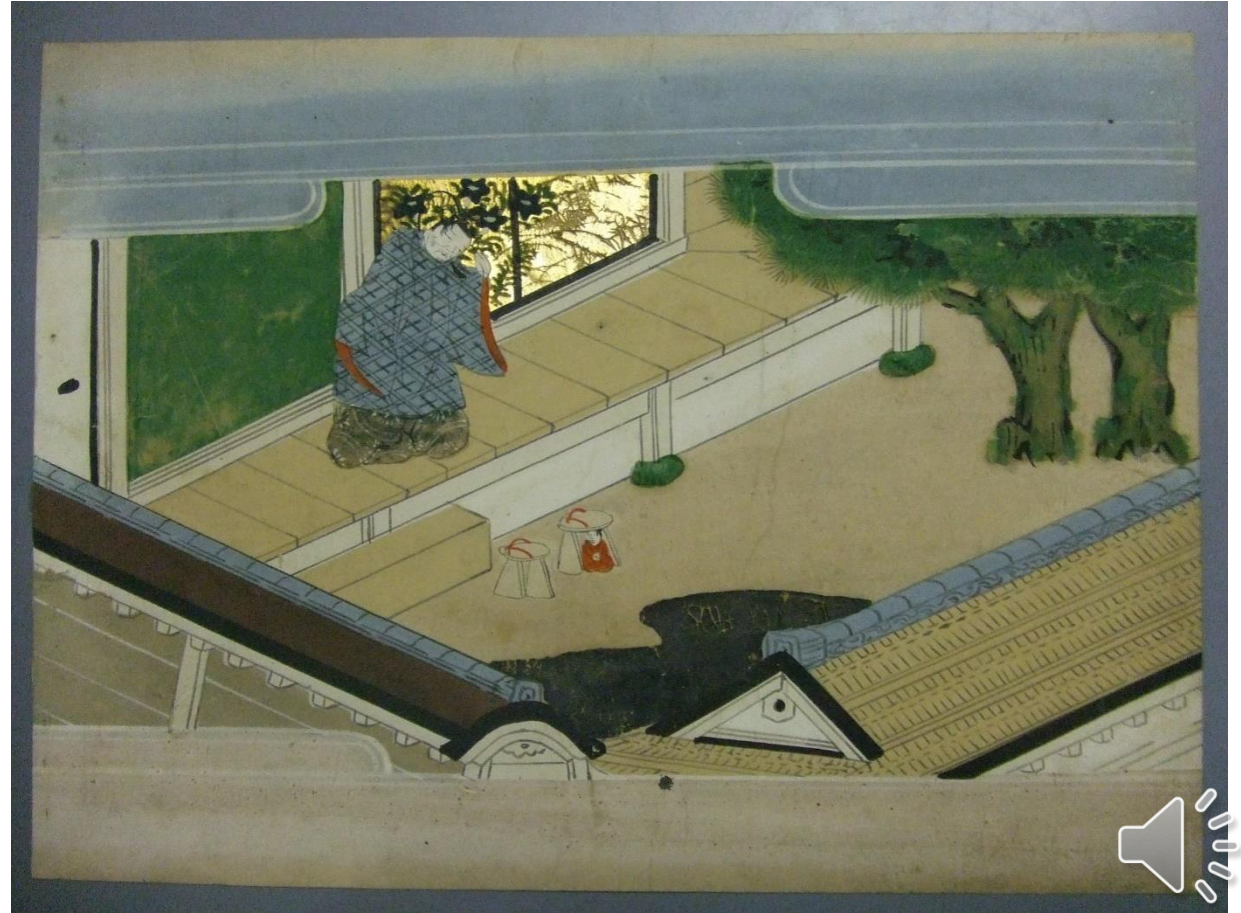
浦島太郎



文正草子 (元禄二年頃)



一寸法師



御曹司島渡（御伽草子 源義経）



蓬萊物語絵巻



蓬萊物語断簡



竹取物語



宇津保物語

